

# Press Release



8. 6. 12  
南予地方局

## 麻痺（まひ）性貝毒の発生について

- 1 水産研究センターでは、6月9日に宇和島市蔭淵地区で実施した調査において、二枚貝に麻痺性貝毒を蓄積させる貝毒プランクトン「ギムノディニウム・カテナータム」が危険濃度を超過して確認されたため、翌日に当該海域で採取した天然マガキの貝毒検査を実施したところ、本日（6月12日）、厚生労働省の定める規制値（4マウスユニット/g）を超える5.2マウスユニット/gの麻痺性貝毒の検出が、確認されました。
- 2 このため、南予地方局では直ちに、蔭淵地区を規制区域に指定し、「二枚貝の採取や自家消費をしないよう」立看板を設置して注意喚起したほか、区域内でイワガキを養殖する関係漁協には安全性が確認されるまで、出荷を停止するよう指導を行ったところです。
- 3 県としては、今後も水産研究センターによるプランクトン調査を実施するとともに、宇和島市及び関係漁協との連携を密にして、迅速な情報提供に努めることとしています。

※この毒は二枚貝特有のものであり、アワビやサザエ等の巻貝や魚類、エビ、タコ、イカ、海藻類等は毒化しないので、食用にしても安全です。

○お問い合わせ先

南予地方局農林水産振興部水産課

担当者：課長 薬師寺房憲

副主幹 梶田陽一郎

TEL 0895-28-6148

## 貝毒プランクトン調査地点、看板設置箇所及び規制区域



## 貝毒プランクトン濃度と貝毒検査の結果

採取日	濃度	貝毒検査
6月 9日	10細胞/ml	—
6月 10日	—	5.2 マウスユニット/g

※危険濃度:0.1細胞/ml、規制値:4.0 マウスユニット/g

## 近年の愛媛県における麻痺性貝毒による出荷規制事例

発生年度	発生日	終息日	継続期間 (日)	発生場所	発生プランクトン種	最高貝毒量 (MU/g)	最高細胞数 (細胞/ml)	毒化貝種類	出荷規制日	解除日	継続期間 (日)
H19	5月19日	7月25日	68	岩松湾	カテナータム	8.5	407	アサリ	H19.6.8	H19.7.25	48
H20	12月16日	5月18日	154	三瓶湾	カテナータム	4.9	1.21	天然マガキ	H20.12.24	H21.5.18	146
H22	6月14日	8月2日	50	岩松湾	カテナラ	18.9	2350	アサリ	H22.6.18	H22.8.2	46
H26	5月1日	7月31日	92	愛南町	カテナータム	6.6	1.07	ヒオウギ	H26.5.1	H26.7.31	92
H28	4月11日	7月26日	107	愛南町	カテナータム	5.8	0.44	天然二枚貝	H28.4.14	H28.7.26	104
H29	5月9日	8月2日	86	愛南町	カテナータム	5.2	10.40	天然二枚貝	H29.5.25	H29.8.2	70
H31	4月5日	9月19日	168	愛南町	カテナータム/カテナラ	140	8	天然二枚貝	H31.4.14	R1.9.19	159
R2	3月16日	9月19日	188	愛南町	カテナータム	38	0.93	ヒオウギ他	R2.3.18	R2.9.19	186
R3	4月27日	6月11日	46	吉田湾	パシフィックム(旧カテナラ)	46	—	天然マガキ	R3.4.27	R3.6.11	46
R3	5月25日	7月26日	63	愛南町	カテナータム	9.2	0.25	天然マガキ	R3.5.25	R3.7.26	63
R6	4月24日	8月19日	118	岩松湾	カテナータム	4.2	0.17	天然マガキ	R6.4.26	R6.8.19	116
R7	3月4日	7月24日	143	三浦地区	アレキサンドリウム・パシフィックム	150	8300	天然マガキ	R7.3.7	R7.7.24	140
R7	6月3日	7月24日	52	三瓶地区	アレキサンドリウム・パシフィックム	15	630	天然マガキ	R7.6.5	R7.7.24	50
R7	1月15日	2月19日	36	御荘湾	カテナータム	4.8	0.141	養殖マガキ	1月28日	2月19日	23
R8	4月20日			北灘湾	カテナータム	7.7	1.820	天然マガキ	4月30日		
R8	5月11日			下波地区	カテナータム	7.0	21	天然マガキ	6月3日		
R8	6月5日			愛南南部地区	カテナータム	5.9	0.32	天然マガキ	6月9日		

## 麻痺性貝毒プランクトンについて



ギムノディニウム・カテナータム8連鎖体

### 形態の特徴

渦鞭毛藻の一種で、単独遊泳状態の細胞は伸長した卵型で、長さ 48~65  $\mu\text{m}$ 、幅 30~43  $\mu\text{m}$  で、横溝が深くて幾分上方に位置する。本種はしばしば長い連鎖群体を形成し蛇のようにクネクネと泳ぐ。

### 生態的特徴

出現時の水温は 10~27°C、塩分は 26~35psu で、特徴的なシスト（植物でいう“タネ”のこと）を形成し、発芽して海水中を漂う。このシストは直径約 50  $\mu\text{m}$  の球形で表面には微小な網目模様があり、海泥中に眠っている。

### 特記事項

二枚貝類の麻痺性貝毒原因種。発生密度が 0.01cells/ml 程度で二枚貝が毒化する恐れがあり、0.1cells/ml で毒化の危険が高まる。

## 麻痺性貝毒について

- 毒 値 : 単位はMU（マウスユニット）  
(1MUとは、体重20gのマウスが15分で死ぬ毒量)
- 規制値 : 4MU/gが食用の貝肉としての基準値  
(昭和55年7月1日環乳第9号厚生省環境衛生局長通知「麻痺性貝毒等により毒化した貝類の取り扱いについて」)
- 致死量 : ヒトの致死量は、3,000MUとされている。
- 症 状 : 食後30分程で口唇、顔面のしびれ、痛みを発生し、続いて四肢の麻痺が起こり、重症の場合は、呼吸麻痺により死亡する。
- 参 考 : 規制の解除については、貝毒の検査結果が3回連続して規制値を下回らなければならない。